

さくらんぼ

自ら動き、感じ、楽しむ
～笑顔あふれる幼稚園～



NO. 3 令和4年7月15日発行
山口大学教育学部附属幼稚園
URL: <http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

今年梅雨明けが早く、真夏のような暑さが続いています。子どもたちは水遊びを楽しんだり、セミを捕まえたりと夏ならではの遊びも存分に楽しんでいます。入園、進級から早4か月、1学期も残り数日となりました。1学期を振り返り、各学年の子どもたちの成長をお伝えします。

自分のやりたいことを見つけ (花組)



「先生、おばけが出たよ！戦おう！」「バンバン(武器) 作りたい！」「もっと長くつなげたい！箱ちょうだい！」等…。花組では、朝から子どもたちの“～したい”が飛び交っています。自分の体がもう一つほしい～！と思います。そんな子どもたちの声を聞きながら、こんなに自分のやりたいことを見つけ、自分の思いを保育者に伝えられるようになったのだと感心する毎日です。最初は幼稚園に慣れることに精一杯だったり、じっと周りの様子を見て過ごしたりしていた子どもたちも、今では、保育者や友達の手を引いて遊びだしたり、みんなと同じものを身に付けて遊んだり、大きな声で話したりするようになりました。きっと一人一人に好きな遊び、好きな場所、好きな先生や友達が見つかり、安心して自分らしく過ごせるようになったのだと思います。

6月中旬頃から、子どもたちは廃材を使ってステッキや変身ベルトなどをつくり、おばけや怪獣の的に向かって戦うことを楽しんでいました。始めは保育者と一緒に戦う側で遊んでいたのですが、「今日は先生が敵になって！」とAくんが言い、保育者(敵)VS子どもたちで遊びはじめました。ちょっと前までは保育者の攻撃を真似ていた子どもたちでしたが、「メロンビーム！」とステッキを振り回すBちゃん、「おばけが嫌がるガスが出るよ。」と武器を向けるCくん、くるっと回ってガオー！と爪を立てるDくん、「ミラクル氷パワー！」とポーズを決めるEくん…書ききれないほど一人一人いろいろな攻撃を繰り出していきました。一人一人好きなものになりきって、自分なりに表現しながら楽しむ姿を見て嬉しくなりました。最後に敵(保育者)の攻撃を受けてバツと倒れこむAくん。「Aくんの元気をとったぞー！」と言うと、周りの子どもたちはAくんの周りに集まります。FちゃんとGちゃんは「魔法の薬よ。」とステッキを振り、CくんとEくんはままごとコーナーからドーナツやケーキを持ってきて食べさせていました。無事、Aくんは目を覚まして一件落着。それぞれに

自分のしたいことを楽しみながらも、周りの友達にも目が向いたり、友達と一緒に楽しくなったりしている姿にも成長を感じました。自分のしたい遊びや友達とのかかわりが楽しく豊かなものになるよう、今後も支えたいと思います。夏休み明け、更にパワーアップした子どもたちに会えることを楽しみにしています！(雨谷)

僕もやってみたい！私もつくりたい！(風組)



4月には「ママ、まだ待ってね。」と言い、朝の支度を見守ってもらっていた子どもたちも、靴箱の前で「いってきます。ママもう帰っていいよ。」と言い登園する頼もしい風組さんになりました。保護者の方に、まだ見守っていて欲しい子どもたちも、さっと朝の支度を済ませ「いってきます。」とタッチをするとすぐに遊び始めています。朝の支度をしながら、先に来ている友達がしていることをよく見ていたり、登園する前からやりたいことを考えて登園してきたりしていることが伝わります。思い返せば4月から今日まで「何して遊ぼうかな？」と迷う子どもたちの姿をほとんど見たことがありません。自分の好きなことややりたいことをしっかりもって、楽しそうだなと思ったことをすぐにやってみることができる子どもたちです。

「いちごジュースつくりたい。」とAちゃん。キッチンペーパーにマーカーで色を付け、それを水に溶かしてジュースをつくりました。そのきれいなジュースを見たBちゃんとCちゃんも「いれて。」とジュース屋さんになりました。しばらくすると「先生、ジュース飲んでいいよ。」とAちゃん。保育者がジュース屋さんに行くと、色とりどりのきれいなジュースがありました。「おすすめは？」と聞くと「いちご」「ブルーベリー」「メロン」と口々に自分がつくったジュースを紹介する子どもたち。保育者が「たくさんあって、覚えきれないから書いていい？」と紙におすすめのジュースを書いていくとメニュー表ができあがりました。そこに、Dくんが丁寧に作ったきれいな青色のジュースをもってきて「海ジュースって書いて。」と言いました。とてもきれいな青色で、海ジュースというネーミングがピッタリのジュースでした。風組の友達がお客さんになって、大盛況のジュース屋さんでした。



翌日「今日もジュース屋さんしよう。」とジュース屋さんが始まりました。机の上に、ジュースがたくさん並ぶと「花組さん呼びに行こう。」と、花組を呼びに行くのが楽しいEくん。一度にたくさん来てくれた花組さんに「こちらどうぞ。」「お金が無くて大丈夫です。サービスです。」と接客するのが楽しいFちゃん。連日ジュースづくりを楽しむCちゃん。それぞれが自分のしたいことをしてジュース屋さんを楽しんでいました。そんな中、大盛況のジュース屋さんの横で、Dくんが「こんなじゃない。」と怒った表情で立っていました。理由を聞くと、お客さんには来て欲しいけど、こんなにたくさんお客さんが来るとは思っていなくて、Dくんが思っていたジュース屋さんとは違ったということでした。お客さんがたくさん来てくれると、遊びが盛り上がり楽しいと思うのは大人の考えなので

しょうね。子どもたちが、自分の思いをしっかりと遊んでいる姿や、自分の思いと友達とのかかわりながら遊ぶことの間でいろいろな感情を経験している姿が見られ、充実した毎日を送ったのだと思いました。(中原)

友達と一緒に挑戦する楽しさ！(星組)

遊戯室には、様々なマットやウレタン平均台、ボールなど体を動かして楽しむ環境を用意しています。6月末に2種類の跳び箱(ソフト跳び箱2段と3段の跳び箱)を新たにしました。繰り返して挑戦することで達成感や充実感が感じられるようにと保育者は願っています。星組の子どもたちの中には、昨年度、星組が取り組む姿を見て興味をもち、風組の時に星組に交じってしたことがある子どもがおり、跳び箱を出すたびに3段の跳び箱を跳んで遊んでいる姿がありました。何度も繰り返して上手に跳んで楽しむ友達の姿を見て、「やってみよう」と加わる子どもの中に、どうしてもお尻が跳び箱の上に残るのですが、2段のソフト跳び箱を頑張って挑戦する3人がいました。隣の3段を跳べるようになっている友達から「手をもっと前につくんよ。」と教えてもらい、Aちゃんが2段を跳べるようになりました。一緒に繰り返していたBくんも一緒に繰り返しているうちに跳べるようになり、まだお尻が跳び箱に残るCくんのやる気が下がり、着地のマットの横に寝そべってしまいました。先に跳べるようになったAちゃんがCくんに「手をね、ここに着いたら跳べるようになったよ。」と自分が友達に教わったことを伝え「見ててね。」と言って何度もやって見せました。保育者が「上手に跳べる見本をよく見たら上手になるよ。」とCくんに声をかけ一緒に見本をするAちゃんやBくんを応援しながら見ていました。寝そべって見ていたCくんが立ち上がってまた跳び始めました。Cくんが手を前に着くように意識して跳ぶようになると、前傾姿勢が少しずつとれるようになり、お尻が跳び箱にかする程度になると、友達から「Cくん跳べたよ。すごい。」とほめられました。Cくんは「あと少しだけだね。」と言いながら繰り返して挑戦し、跳べるようになりました。

降園時の集まりの時に跳び箱の披露をする機会をもちました。上手に跳ぶ女児の後、その日に初めて跳べるようになったBくんとCくんを紹介しました。Cくんは「失敗するかも」と言っていたのですが、みんなの前で2段を上手に跳びました。保育者がBくんとCくん「どうやったら跳べるようになりましたか？」と聞くとBくんは「手を前の方にしたら跳べた」と言い、Cくんは「Aちゃんの見本を見たのと教えてもらったから」と答えました。「二人とも何回も繰り返して頑張ったからすごいね」とクラスみんなで拍手を送りました。



翌日Cくん、BくんとAちゃんは登園後すぐに3段を挑戦し、跳べるようになり、新たに4段の跳び箱を用意しました。頑張る友達の姿を見て、新たに跳び箱に挑戦する子どもたちも増えていきました。(高田)